歴 史 を 感 じ て

三輪⑥原地蔵マップ

この資料は、筑前町の歴史、三輪の昔ばなしなどをもとに作成しています。

ぷら～り 散歩

これからの時代、健康づくりが大切です。歴史を感じながら散歩を楽しみましょう。コロナに負けるな！

原地蔵

神社	原神社
その他（戦跡等）	憲兵分遣隊の煉瓦塀
	西日本航空発祥の地
	大刀洗飛行第四聯隊の跡
	監的壕
伝承	生え抜き地蔵

★原地蔵は、大刀洗飛行場の戦跡等がたくさんあります。さらに興味のある方は、大刀洗平和記念館へ。

★大刀洗飛行場

大刀洗飛行場は、艦砲射撃が届かない内陸にあり、気象条件も良く、周囲に飛行の妨げとなる建物がないことから選ばれました。建設は連日5000人を動員する突貫工事で進められ、工事中は、小石原川から大刀洗まで砂利を積んだ荷馬車の列が延々と続いたと言われています。

大正8年（1919）10月、工事は完了し、朝倉郡三輪村・馬田村と三井郡大刀洗村にまたがる広大な飛行場が出現しました。飛行場はその後も拡張され、最終的には東西1.7Km、南北1.5Kmの規模になりました。大正8年11月、大刀洗飛行場には所沢航空第四中隊の104名が着任し、その後順次拡大されて、大正14年(1925)には飛行第四聯隊に昇格し、人員も1500人規模となりました。大刀洗飛行場は、中国大陸に近いという特徴から、大陸への中継・補給基地と位置付け、昭和15年、飛行第四戦隊（昭和13年改称）が熊本へ移動した後も、様々な飛行部隊が編成移駐してきました。また、昭和4年から11年にかけての一時期、大刀洗飛行場を中継点に民間航空会社も営業していました。 その後、昭和20年3月27日と31日に大空襲を受け多くの方が犠牲者となりました。

★原地蔵の由来（生え抜き地蔵）

原地蔵の地名の由来は、ここのお宮（原神社）の御神体であるお地蔵さんからきています。地蔵さんというのは俗に、賽(さい）の河原の救護者で道に迷っている人を、極楽に案内していただく菩薩として信仰され、また、子どもの守護者とされていました。

本来は仏様ですが、賽の河原との結び付きで、中国の道祖神や賽の神と習合され、村ざかい等に立てられて、村を護る神または、仏様になりました。ここの地蔵様は、仏様の姿ではなく、自然石の石神様で、しかも他から持ってきた石ではなくここの大地から生えていた石だと言われ、俗に「はえぬきじぞう」と言われています。

町内では他に当所のお宮にも、石神の地蔵さまがあります。

※賽の河原とは、死んだ子供が行く所といわれる冥途(めいど)の三途(さんず)の川の河原です。

★地名の由来や伝承等ご存じの方は、下記までご連絡ください。

お問合せ：筑前町社会福祉協議会
（筑前町篠隈373コスモスプラザ福祉館）
ＴＥＬ：0946-42-4555（担当 時津、石丸）
Eメール：chikuzenshakyo@tea.ocn.ne.jp

原地蔵マップ

憲兵分遣隊の煉瓦塀

原神社

生え抜き地蔵

地元の方の話では、黒田長政の三男長興の頃（1600年代）、この地を開拓したそうです。

そして、この石を掘ろうとしましたがいくら掘っても掘っても根っこが出てこないことより、大地から生えたもの（生え抜きの石）として、神社を建て御神体となったそうです。

原地蔵区公民館

公民館に、時々やぎが出没するそうです。

西日本航空発祥の地

時計台跡（慰霊碑）

大刀洗飛行第四聯隊之跡

監的壕